

前線に伴う大雨よる現地調査 (城原川:佐賀県神埼市)

令和3年8月の九州北部を中心に1週間にも渡る前線停滞に伴う豪雨により、筑後川支川城原川の川裏堤防小段の法すべりが発生。本被災箇所の被災原因や復旧工法検討等のためTEC-Doctor及び国交省職員による現地調査の実施及び助言等頂いた。

出席者:九州大学大学院 安福教授

● TEC-Doctorによる調査(令和3年8月21日)



<所見等>

- ・長時間降雨による典型的な円弧すべりと考える。
- ・下層の土質は湿潤状態の土砂で水が抜けぬく、長時間の降雨で堤体が飽和状態になり、粘着力の低下で法尻が動きすべりが発生したと考える。
- ・崩壊土塊は安定しているが、今後の降雨により崩壊が進行する恐れがあるのでブルーシートで養生する。
- ・堤体残留水位を下げる対策として、簡易的対策を実施(木柵+岩石+吸い出し防止シート)

<今後の技術的対応>

- ・今回の崩壊箇所と同一形状となっている上下流を一連区間として対策を実施。
- ・今回の降雨量など踏まえ対策を検討。小段はもうけず一枚法化。
- ・城原川の浸透対策実施区間で今回の出水で対策効果があれば、それを踏まえて対策工法を検討。
- ・検討にあたって、法面の上下部層で土質が異なるので、地下水やどけん棒で堤防表土の堅さも確認